

## 参考資料

### つくりだす喜びを重視した図画工作科の学習指導

21 世紀の我が国の学校教育における改善の中心は、「ゆとりの中で [ 生きる力 ] をはぐくむことを重視する」ということである。これからの学校では、[ 生きる力 ] をはぐくむ観点から、生涯にわたって生きて働く教育内容に厳選することが課題となる。

したがって、図画工作の改善も一言で言えば、内容の厳選ということになる。授業時数の縮減を踏まえ、児童がものをつくりだす喜びを味わうようにし、一人一人のもてる力を高めるようにすることが基本的な考え方となる。つまり、かけがえのない存在である児童一人一人が、これからの社会において、自分のよさや可能性を發揮しながら、主体的創造的に生きるようにすることがますます求められるということである。

そこで、ここでは、「つくりだす喜びを重視した図画工作科の学習指導」の在り方を中心に、児童が楽しく造形活動にかかわるためにはどうすればよいか述べることとする。

#### 1 具体的な改善の内容

##### (1) 内容が 2 学年まとめて示されたこと

これまで各学年ごとに示されていた内容が、2 学年まとめて、低学年、中学年、高学年ごとに示された。

まとめて示されたことによって、児童は、自分の思いをもとに試行錯誤しながら、表し方や材料などを自ら選び、試み、つくりだす喜びを味わうことができる。

##### (2) 高学年にも造形遊びが設けられたこと

高学年の「造形遊び」の活動は、遊びに見られる主体性、活動性、想像性、共同性などの創造的な特性を取り入れ、児童の資質や能力を育成するために学習内容として構成されたものである。

このことにより、児童は、楽しい発想やユーモアのあるアイデア、試してみようとする冒険的な態度、体全体による働きかけ、美しさなどを見付け、つくりだす喜びを味わうなど、自分のよさや可能性を試し広げることができる。

##### (3) 絵や立体、つくりたいものをつくることなどを一層関連付けたこと

それぞれの表現を関連付けて扱えるようになったことにより、児童のよさや可能性を幅広くとらえるとともに、弾力的な指導ができるようになった。

このことにより、例えば、板の上に絵を描くなど、児童は新しい造形活動を体験しより一層つくりだす喜びを味わうことができる。

## 2 つくりだす喜びを重視した学習指導の工夫

### (1) 「つくりだす喜び」とは

児童にとって、絵を描いたりものをつくったりする活動は、それ自体が楽しいものである。このような表現活動は、児童のものにかかわる欲求や表現への欲求を満たし、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさを味わうことになる。それが、「つくりだす喜びを味わう」ことの意味である。これは、自己実現的な喜びであり、一人一人の生きる力となるものである。

### (2) 2カ年を見通した年間指導計画

#### ア 題材の精選，活動のゆとり

今回の改訂では、中・高学年において時間数が削減された。これを受け、各学校においては、指導内容を整理・統合することで題材を精選し、幅をもたせながらゆとりのある指導に転換する必要がでてきた。そこで、6年間で児童が身に付けなければならない資質や能力を基本にすえた上で、2カ年を見通した年間指導計画を作成することが重要になる。

#### イ 作成に当たっての留意点

- (ア) 指導内容が、最初の学年において高度になりすぎないようにする。
- (イ) つくりたいものをつくることや工作に表すことの内容に配当する授業時数が、絵や立体に表す内容に配当する授業時数とおおよそ等しくなるようにする。
- (ウ) 「A表現」と「B鑑賞」との関連を図るようにする。
- (エ) 適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにする。
- (オ) 低学年においては、生活科などとの関連を図り、指導の効果を高めるようにする。

### (3) 題材の構成及び設定

#### ア 学校や地域の特色を生かす

学習活動をより充実したものにするために、学校や地域の特色を生かし、児童の生活とかかわり深い題材を組み入れる。例えば次のようなことである。

- (ア) 学習発表会や遠足など、学校行事との関連で題材を設定する。
- (イ) 地域の特産品，四季折々の自然の材料，工場から出るプラスチックなど多くの材料を生かした題材を設定する。
- (ウ) 地域の人材活用も含め，祭りや伝統芸能などとの関連や地域の特色ある建造物や場所などから，題材を設定する。

#### イ 共同でつくりだす喜びを味わう

児童が、互いのよさを認め合い発想を広げる手だてとして、指導計画の中に、共同でつくりだす活動を組み入れる。ここでいう共同でつくりだす活動とは、一人がアイデアを考え、作業を分担するような共同作業ではなく、一人一人が創造的にかかわり、共同でつくりだす喜びを味わえるような活動のことである。

#### ウ 様々な表現方法を体験させる

様々な表現の経験は、児童の造形体験を豊かにし、表現の幅を広げることからも意義深いことである。

#### エ 地域の美術館などを利用する

鑑賞を充実させるための手だてとして児童や地域の実態に応じて、地域の美術館、公園にある彫刻、特徴のある地域の建物、工芸品など身近にある美術に触れる機会を設ける必要がある。

#### オ 他教科等との関連を図る

他教科等との関連を図る場合には、図画工作科で育てようとする資質や能力がその活動の中で十分発揮されることが大切である。そして、他教科と関連を図ることにより、児童の造形活動が活性化されるような題材を設定し、想像の喜びが味わえるような指導計画を工夫することが重要である。

#### カ 豊かな題材を設定する。

題材の選択に当たっては、あらゆる面で児童に選択の場があるかどうか、大切な視点となる。その視点は、おおむね次の通りである。。

- (ア) いろいろな材料の形や色、大きさなどから材料を選べる。
- (イ) 自分なりの方法が使えたり、新たな方法を試したりできる。
- (ウ) 活動の場所を選べる。
- (エ) 安全に活動できる。

### (4) 学習指導の在り方

#### ア 資質・能力を十分に働かせる指導

児童の表現活動に寄り添い、共に楽しむとともに、よさを見付け、共感的な言葉をかけながら指導することが大切である。

##### (ア) 低学年における指導

材料や活動の場所などの安全面に配慮しながら、安心感を抱いて思いのままに活動ができるようにする。

##### (イ) 中学年における指導

児童自らの発想や方法などがより発揮できるようにしたり、活動の過程を重視し、児童がゆとりをもって造形活動に取り組めたりできるようにする。

##### (ウ) 高学年における指導

表したいことを見付け、形や色などの特徴をとらえ、それらを生かしながら、表し方を工夫することを楽しめるようにする。

#### イ 幅広い表現を生む指導

個々が持っている思いや考え方、判断の仕方、表現の能力など、その子の資質や能力のよさを確認しながら、柔軟に対応し、弾力的な指導をすることが大切である。

#### ウ 材料や用具の指導

材料や用具の使用法だけを指導するのではなく、それらの基本的な使い方に関心をもつようにするとともに、その扱いになれるようにすることが重要である。したがって、児童が身近な材料や用具を、自分で集めたり、選んだり、生かしたりして使えるように指導することが大切になってくる。

### 3 学習指導の充実を目指して

児童にとって、絵を描いたりものをつくったりする活動は、それ自体が楽しいものである。このような考え方にたって児童に接したとき、児童は、もてる力を自在に働かせ、思いのままに活動するとともに、造形表現活動は生き生きとしたものになり、心身の調和的な関係が高まることであろう。

今後も、児童が自らつくりだす喜びを味わうとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てるための、豊かで楽しい授業を展開していきたいものである。

〔参考文献〕

小学校学習指導要領解説 図画工作編 H 11 発行

新しい教育課程と学習活動の実際（図画工作）東洋館出版社